

## ご担当者各位

# SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2017 全ラインナップ発表!! 7/15(土)~23(日)開催!!

- ★今年の目玉は、本映画祭出身の新鋭監督たちの原点を特集する「飛翔する監督たち」!
- ★注目のVRを特集した「Dシネマー新たなる潮流」では、国内外のVR作品6本を一挙上映!
- ★メインとなるコンペティション3部門には85の国・地域から810本がエントリー!  
長編部門(国際コンペティション)では、初ノミネート3か国を含む厳選12本を上映!
- ★映画祭がプロデュースするオープニング作品は、堀江貴大監督『ANIMAを撃て!』をワールド・プレミア!

平素よりお世話になっております。

世界に先駆けてデジタルシネマにフォーカスし、次代を担う若手映像クリエイターの登竜門として2004年にスタートした「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭」は、これまで、カンヌ国際映画祭で3冠に輝いたトルコの巨匠ヌリ・ビルゲ・ジェイラン監督を日本でいち早く紹介し、日本人監督においても、白石和彌監督(『日本で一番悪い奴ら』)、中野量太監督(『湯を沸かすほどの熱い愛』)をはじめ多数の若手監督が本映画祭をきっかけに羽ばたいていきました。

そして来る7月15日(土)~23日(日)の9日間、本映画祭は14回目の開催を迎えます。

本日6月1日(木)、都道府県会館(東京・永田町)にて記者発表を行い、**オープニング作品、長編・短編・アニメーション部門のコンペティション3部門ノミネート作品、特集上映企画をはじめとする全上映ラインナップを発表いたしました。**詳細は下記の通りです。本年も映画の未来を担う、新たな才能の発掘に取り組んでまいります。ぜひ貴媒体にて本情報をご紹介しますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 特集「飛翔する監督たち」と題し、日本映画界を牽引する若き才能たちの原点を上映!

今年の目玉企画のひとつとして、若手映像クリエイターの登竜門として開催してきた過去13回の歴史の中から、過去に本映画祭でノミネート・受賞を経験し、現在日本映画界の新鋭として活躍する6人の若手監督にスポットを当てた特集を開催します!

本映画祭では、過去に白石和彌監督(『日本で一番悪い奴ら』)が初長編作『ロストパラダイス・イン・トーキョー』で2009年の長編部門SKIPシティアワードを受賞、中野量太監督(『湯を沸かすほどの熱い愛』)が同じく初長編『チチを撮りに』で2012年長編部門監督賞・SKIPシティアワードをW受賞、坂下雄一郎監督(『東京ウィンドオーケストラ』)は2013年の長編部門で『神奈川芸術大学映像学科研究室』が審査員特別賞を受賞するなど、日本映画の未来を担っていくと期待される監督たちが飛躍のきっかけを掴んでいきました。

本特集では、**今となってはなかなか観ることのできない、彼らの原点ともいえる本映画祭での上映・受賞作品(長編3本、短編3本)を上映します。**

また上映後には、各監督によるQ&Aの他、7/22(土)の『ロストパラダイス・イン・トーキョー』上映後には白石和彌監督、中野量太監督、坂下雄一郎監督の3名によるトークイベントも開催します!



『ロストパラダイス・イン・トーキョー』

監督:白石和彌

©2009 Cine Bazar



『チチを撮りに』

監督:中野量太

©2012 ピクチャーズネットワーク/日吉ヶ丘ピクチャーズ



『神奈川芸術大学映像学科研究室』

監督:坂下雄一郎

©東京芸術大学大学院映像研究科

## 【特集「飛翔する監督たち」上映作品】

『ロストパラダイス・イン・トーキョー』白石和彌監督(2009/日本/115分) 2009年長編部門 SKIP シティアワード受賞  
 『チチを撮りに』 中野量太監督(2012/日本/74分) 2012年長編部門監督賞・SKIP シティアワード受賞  
 『神奈川芸術大学映像学科研究室』 坂下雄一郎監督(2013/日本/70分) 2013年長編部門審査員特別賞受賞  
 『It's All in the Fingers』 石川慶監督(2009/日本、ポーランド/10分) 2009年短編部門ノミネート  
 『イチゴジャム』 庭月野議啓監督(2010/日本/32分) 2010年短編部門ノミネート  
 『ケンとカズ』 小路紘史監督(2011/日本/23分) 2011年短編部門奨励賞受賞

## 特別企画「Dシネマ—新たなる潮流」 注目のVR作品を国内外から集めて一挙上映！

VR(バーチャルリアリティ)元年と呼ばれた2016年。今年に入り、日本でもVRコンテンツが新たな映像技術として注目が高まっていることを受け、**日本国内の映画祭としては初の規模となる、国内外から集めたVR作品6本を実際に体験できる特別企画を開催します！映画祭会期中の3日間(7/16~7/18)にわたり、日本初公開の作品を含む全6作品を無料で鑑賞いただけます！**

さらに連日VRの制作・ビジネスに関わるゲストを迎えてのトークイベントも開催予定です。

### 【特別企画「Dシネマ—新たなる潮流」上映作品】

『交際記念日』 監督：窪田崇 <2017年/日本/15分>  
 『ANIMAを撃て！』VR特別編 <2017年/日本/5分>  
 『ナイト・フォール』 監督：ジップ・サムハウド <2016年/オランダ/8分>  
 『二月の森』 監督：マールテン・イサーク・デ・ヒーア <2015年/オランダ/13分>  
 『リビング・イン・パリ：エッフェル塔を望むシャイヨー劇場にて』 監督：ミシェル・レイアック <2017年/フランス/4分>  
 『ポンテオ』 監督：ミシェル・レイアック <2017年/フランス/5分>

※『ナイト・フォール』『二月の森』『リビング・イン・パリ：エッフェル塔を望むシャイヨー劇場にて』『ポンテオ』の4作品の詳細およびトークイベントの詳細は後日追加発表いたします。



©2017『交際記念日』プロジェクト

**『交際記念日』 監督：窪田崇**  
 卒業式間近の教室。忘れ物を取りに来た太一は、教室の隅に人影を見つける…。高校時代の切なく甘酸っぱい青春の日々を武田玲奈主演で描く、日本初“泣けるVR”映画。



©2017 埼玉県 / SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ

**『ANIMAを撃て！』VR特別編**  
 オープニング作品『ANIMAを撃て！』のコンテンポラリーダンスシーンを、VRカメラで撮影した作品。VRならではの臨場感溢れる迫力のダンス映像を全身で体験！

## 長編部門にはアルメニア、スロヴァキア、ネパール作品が初ノミネート！

### 海外作品はすべて日本初上映！海外9本、国内3本の計12作品がグランプリを競う！

長編部門では、**85の国・地域から集まった617作品から、厳正なる一次審査を経た12作品(海外9本、国内3本)がノミネート！14回目にして初ノミネートとなったアルメニア、スロヴァキア、ネパール作品など、日本ではあまり公開されることのない世界の話作をスクリーンで鑑賞できる貴重な機会です！**

海外作品は、近年注目を集めるハンガリーから、難民問題を扱ったパワフルなドラマ『市民』、初ノミネートのスロヴァキアからは今年のベルリン国際映画祭ジェネレーション部門でクリスタル・ベア賞(最高賞)に輝いた、貧困の連鎖の中で懸命に生きようとする子どもたちを描く『リトル・ハーバー』、フランスからは『最強のふたり』のフランソワ・クリュゼ主演の大人の人間ドラマ『ジャン=ピエールとナタリー』、中国からは、絵画のレプリカ制作で生計を立てる街・ダーフェンに生きる男の姿を追ったドキュメンタリー『中国のゴッホ』などがノミネート。

### 海外9作品全てが日本初上映となります！



**『中国のゴッホ』**  
 監督：ハイボー・ユウ、キキ・ティエンチー・ユウ  
 <2016年/中国、オランダ/80分>

© YU Haibo



**『ジャン=ピエールとナタリー』**  
 監督：トマ・リルティ  
 <2016年/フランス/102分>

©Jair Slez



**『市民』**  
 監督：ローランド・ヴラニク  
 <2016年/ハンガリー/109分>

## オープニング作品は新星・服部彩加、小柳友主演。 堀江貴大監督が女性ダンサーの成長を描く『ANIMAを撃て!』をワールド・プレミア上映!

若手映像クリエイターの育成強化のため、若手監督を抜擢して映画祭実行委員会によるプロデュースのもと映画祭のオープニング作品を製作するプロジェクトも今年で3年目を迎えました。

今年のオープニング作品は、昨年の本映画祭長編部門に東京藝術大学大学院の修了制作『いたくても いたくても』がノミネートした堀江貴大を抜擢。

バレエ団に所属しつつも自分が本当に表現したい踊りを模索する女性ダンサーと、ドラマーの夢を諦めた青年が、コンテンポラリーダンスとドラムのセッションに挑む姿を描く『ANIMAを撃て!』を上映します。本作は本映画祭の地元・埼玉県川口市や、所沢市などで撮影が行われ、新星・服部彩加が見事なダンスシーンを披露。相手役には『トウキョウソナタ』『がじまる食堂の恋』などの小柳友。フレッシュな二人の爽やかな青春ドラマとなっています。



『ANIMAを撃て!』<2017年/日本>

彼のビートが教えてくれた、私だけのステップ。魂の躍動が響き出す!

クラシックバレエカンパニー「BAN」に所属する果穂は、留学支援のための試験に挑むものの、自分が本当に表現したい踊りを見つけられずにいた。果穂は、ホール職員の伊藤がドラム経験者だったことを知り、コンテンポラリーダンスとドラムのセッションで最終試験に臨むことに決める。

監督:堀江貴大 出演:服部彩加、小柳友、中村映里子、黒澤はるか、藤堂海/大鶴義丹

製作:埼玉県/SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ ©2017 埼玉県/SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ

## 国内の若手監督の力作が揃った短編部門!『合葬』の小林達夫監督、『-x-(マイナス・カケル・マイナス)』の伊月肇監督作品から、異色の時代劇ミュージカルまで幅広いラインナップ!

国内コンペティションとなる短編部門には、今年は153本のエントリーから12本をノミネート。

『カントリー・ガール』『合葬』で注目された小林達夫監督が移りゆく渋谷の街を川瀬陽太主演で描く『After Hours』、『-x-(マイナス・カケル・マイナス)』の伊月肇監督が少女と少年の小さな逃避行を描く『The Light Dances』、津川雅彦を主演に迎え、アラブ系の男と日本人の老人の間に起こったある出来事を短編ならではの見事な構成で描く『サイレン』、おなじみの水戸黄門を異色の“時代劇ミュージカル”に仕立てた『水戸黄門Z』など、バラエティ豊かなラインナップで最優秀作品賞を競います。



『After Hours』

監督:小林達夫

<2016年/日本/15分>

©Tatsuo Kobayashi / Happy Tent



『The Light Dances』

監督:伊月肇

<2016年/日本/24分>

©Hajime Izuki / Happy Tent



『水戸黄門Z』

監督:大川祥吾

<2016年/日本/25分>

©Mitokomon Z



『サイレン』

監督:三宅伸行

<2017年/日本/17分>

©クロマリズム

## 昨年話題を呼んだ傑作アニメーション映画2作品を上映、 映画賞を席卷した『湯を沸かすほどの熱い愛』のバリアフリー上映など盛りだくさん!

毎年恒例となっている「バリアフリー上映」(日本語字幕+音声ガイド付上映)では、今年の日本アカデミー賞最優秀主演女優賞をはじめ映画賞を席卷した中野量太監督の商業デビュー作『湯を沸かすほどの熱い愛』を上映!

さらに「長編アニメーション上映」では、昨年11月の公開以来、口コミで評価を伸ばし大ヒットとなった傑作『この世界の片隅に』と、文部科学省特別選定作品にも選ばれた名作『ソング・オブ・ザ・シー 海のうた』を上映します!



『湯を沸かすほどの熱い愛』

監督:中野量太

<2016年/日本/125分>

©2016「湯を沸かすほどの熱い愛」製作委員会



『この世界の片隅に』

監督:片渕須直

<2016年/日本/129分>

©この世界の片隅に製作委員会



『ソング・オブ・ザ・シー 海のうた』

監督:トム・ムア

<2014年/アイルランド、ルクセンブルク、ベルギー、フランス、デンマーク/93分>

©Cartoon Saloon, Melusine Productions, The Big Farm, Superprod, Norlum

## 主催者、長編・短編・アニメーション部門各審査委員長コメント

記者発表では、主催者の上田清司実行委員会会長(埼玉県知事)、奥ノ木信夫実行委員会副会長(川口市長)、八木信忠総合プロデューサー、土川勉ディレクター、黒沢 清 長編部門国際審査委員長、榎井省志 短編部門審査委員長、小出正志アニメーション部門審査委員長の計7名が登壇し、映画祭開催への期待と意気込みを語られました。コメントは以下のとおりです。

### ○上田 清司 (実行委員会会長/埼玉県知事)

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭から、素晴らしい監督や作品が世に出ている。今年はこれら活躍著しい監督たちの原点である、本映画祭での作品をまとめて特集として上映する。多くの監督がこの映画祭から出発して活躍していることに、自信と誇りを持っている。これからも多くのクリエイターが埼玉県、川口市に集まり、本映画祭が日本の映画界をリードするようになっていければ、心から嬉しく思う。

### ○奥ノ木 信夫 (実行委員会副会長/川口市長)

映像クリエイターの発掘・育成とデジタルシネマの普及を目的に開催してきた本映画祭も、今回で14回目を迎え、来年15回目となる。節目の年に向け、さらに躍進するための年としたい。川口市では、昨年度より本格的にシティープロモーションに力を入れ、選ばれるまちづくりの推進に取り組んでいる。映画祭で本市に足を運ばれる折には住んでみたいと思われるよう、皆様を迎えたい。

### ○八木 信忠 (映画祭総合プロデューサー)

撮影所での修行を経て監督になるという時代ではなくなってきた中で、SKIPシティから若い才能が巣立って欲しいという思いから、これまで映画祭や製作支援を続けてきた。14年が経ち、ようやく注目される監督たちが始まってきたので、今回はその監督たちを御紹介するため特集上映を行う。SKIPシティはこれからも日本の若い監督たちを支援して行くので、御協力をお願いしたい。

### ○黒沢 清 (長編部門国際審査委員長/映画監督)

自分自身が映画の好きがはつきりしているので、これまで映画祭の審査員という仕事はほとんど受けてこなかった。しかし一方で、今の若い監督たちがどんな作品を撮っているのかはとても気になっていた。今回、世界中の若い監督の作品を12作品観られるということもあり、思い切って審査員をお受けした。一体どんな映画と出会えるのか、期待と不安の中で身の引き締まる思いでいる。

### ○榎井 省志 (短編部門審査委員長/株式会社アルタミラピクチャーズ代表取締役、映画プロデューサー)

この映画祭では何度も審査委員長をやらせていただいているが、SKIPシティ国際Dシネマ映画祭は、行政と地元の方の支援を受け14回まで続けてきたということで、本当に実のある映画祭だと思っている。SKIPシティから羽ばたいた監督たちが世に出て、我々の仲間として頑張らせているのを見ると、非常に心強く感じる。

### ○小出 正志 (アニメーション部門審査委員長/アニメーション研究者、東京造形大学教授)

アニメーションだけの映画祭は世界中にたくさんあるが、実写の長編・短編の部門と合わせてアニメーション部門がある、総合的な映画祭ということにこの映画祭の意義がある。アニメーション部門は今年でまだ4回目、始まったばかりだが、この映画祭で見出された作家たちがどんどん出てくることを期待している。

### ○土川 勉 (映画祭ディレクター)

今年も長編部門には非常に多くの国から応募をいただいた。日本ではなかなか観ることができない国の映画も上映するのでご期待いただきたい。また、本映画祭から巣立っていった監督たちの特集上映や、VRにフューチャーした特別企画など、多くのプログラムを組むことができたので、今年も皆さまに楽しんでいただける映画祭にしていきたいと思う。

## <SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2017 (第14回) 開催概要>

■会期：2017年7月15日(土)～23日(日)

■会場：SKIPシティ 映像ホール、多目的ホールほか(川口市上青木3-12-63)

彩の国さいたま芸術劇場(さいたま市上峰3-15-1) [7/16、7/17のみ]

こうのすシネマ(鴻巣市本町1-2-1 エルミこうのすアネックス3F) [7/16、7/17のみ]

■主催：埼玉県、川口市、SKIPシティ国際映画祭実行委員会、特定非営利活動法人さいたま映像ボランティアの会

■公式サイト：www.skipcity-dcf.jp

\* 前売券販売期間：6月2日(金)～7月14日(金)まで、セブンチケット、ファミリーマート、チケットぴあほかにて販売いたします。

\* 上映作品の詳細や、スケジュールなどは公式サイトでご確認ください。

\* 全プログラムの作品画像、テキスト資料、映画祭メインビジュアル、ロゴ、プレスリリースなどの素材は、**[Image.net]**でもご提供しております。

【お問合せ】SKIPシティ国際Dシネマ映画祭事務局 広報：堀切

TEL：048-263-0818 FAX：048-262-5635

E-Mail: [press@skipcity-dcf.jp](mailto:press@skipcity-dcf.jp) / [horikiri@skipcity.com](mailto:horikiri@skipcity.com) MOBILE：090-4228-2342